

阪神地域

「身近な「農」を応援する多様な主体との協働による、「阪神まちの農業応援プロジェクト」の推進」

I 施策の展開方向

阪神地域は、都市部と多自然地域が共存する地域で、猪名川・武庫川水系による肥沃な土壌にも恵まれ、多彩な農畜産物を生産しています。

県人口の 1/3 を擁する大消費地を抱える立地条件を活かし、農産物直売所や観光農園等を拠点とした農業者と消費者の交流や異業種連携の取組等を進めてきました。

一方で、担い手の高齢化に加え、都市化の進展等によって生産緑地等農地の減少が進んでおり、農地や農村環境、里山を維持・保全し、持続可能な農林業を確立していくためには、新たな担い手の育成や、農業者と事業者、地域住民との連携を強化することが重要です。

そのため、地域の企業や住民等が阪神地域の都市及び都市近郊農業（以下、都市農業等）に親しみを感じて、農地の多面的機能の重要性を理解し、自分事のように農業の維持や担い手の育成を支援できる機運を醸成します。

さらに、豊かな田園地帯と日本一の里山を有する北部地域では、それらの農村資源を守るため、都市住民も含めた多様な主体による農地・水路等の維持管理や里山の保全活用等の取組を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 1 人と環境にやさしい農業の推進と地域の特色・立地を活かした農業の展開

1 人と環境にやさしい農業の推進

耕畜連携による堆肥施用、緑肥作物の活用、抵抗性品種や天敵の導入、病虫害発生予察情報や土壌分析結果の利用などを組み合わせた、基本技術の普及を図ります。

また、環境保全型農業直接支払制度の活用やみどり認定、ひょうご食品認証制度の認証取得を推進し、人と環境にやさしい農業実践者の裾野を広げていくとともに、マッチングを通じた販路開拓、確保を支援します。

さらに、有機農業の技術習得を支援するため、親方農家等研修先の確保を進めます。

2 生産性向上による競争力強化

(1) スマート農業技術導入による省力化・高品質化

スマート農業技術の積極的な活用を推進するため、研究機関や JA、農機メーカー等関係機関と連携して、最新技術を農業者等が「知る」機会や「体験する」機会づくりを充実します。

また、地域への適応性や費用対効果等の検証を行い、各種支援施策等の活用を進めるとともに、地域内シェアリング体制の構築、オペレーターの育成等を推進します。

施設園芸においては、従来の勘や経験に頼った栽培から、データに基づく栽培方式への転換を促し、生産性の向上や高品質化を進めるとともに、新規栽培者に対しても早期に生産が安定するよう環境制御技術の導入を推進します。



可変施肥田植機実演会（三田市）

(2) 農産物の需要に応じた生産と安定供給

ア 野菜

JAの生産部会等を対象とした研修会や生産技術の指導等を行い、栽培技術の改善や機械化などを進めます。

また、直売所等に向けた葉物野菜やトマト、いちごなどの多彩な品目による、高収益、高品質で安定生産に資する施設園芸を推進するため、パイプハウスなどの生産施設の導入を進めます。

特に、近年の夏季高温・乾燥に対し、高温対策技術の導入を支援し、作業者の体調にも配慮した安定生産、安定供給を図ります。

施設いちごについては、近年、都市近郊の立地を活かして新規就農者等による観光いちご園の取組が増えてきており、経営の確立を図るため、PR等の販売促進を支援します。

北部を中心に水田における新たな高収益作物として阪神産早生黒大豆枝豆の総称「六甲黒ゆたか」の品種リリース出荷によるブランド化に取り組んでいます。集荷・調製施設である三田ビーンセンターの充実とともに機械化省力体系の確立、適切な灌水作業の実施等、安定生産体制の強化を支援します。



収益性の高いいちご高設栽培
(尼崎市)



枝豆収穫機導入による
面積拡大(三田市)

イ 水稲

人と環境にやさしい農業を基本に安全・安心でおいしい米づくりを目指して、低コスト・省力化技術の導入を進めるとともに、近年の温暖化に対応できる高温耐性に優れた良食味品種への転換や業務用需要など多様なニーズに対応するなど、地産地消を基軸とした生産とブランド力の向上を図ります。

また、北部は酒米「山田錦」の適地でもあり、「気候風土を活かした酒米「山田錦」生産システム」が令和6年度に日本農業遺産に認定されたことを契機とし、酒蔵が求める高品質の酒米生産を推進するとともに、関係機関と連携したPRに取り組めます。

ウ 果樹・茶

「北摂栗」や川西市のもも、いちじく等、伝統的な産地では、計画的な更新せん定や改植により園地の若返りを行うとともに、需要の高い品種導入を進め、産地の維持・発展を図ります。特に、農業経営の多角化を目指し、新たな品目として導入面積が増加しているぶどうでは、省力化や高温対策等の技術導入を推進し、経営の安定化を支援します。



もも品評会(川西市)

茶においては、県内最大の茶葉生産を誇る三田市の「母子茶」産地に対して、機械化等による省力化、栽培管理作業の改善、高齢樹の改植等を進めるとともに、実需者等と連携した商品開発、直売によるPR活動など需要拡大の取組を支援します。

エ 花き

歴史と高い生産技術を有する宝塚市・伊丹市の植木や盆梅(ぼんばい)・南京桃の産地では、ウメ輪紋病対策による生産中断からの産地復興に向けて、ニーズに合った新たな品目、品種の導入、効率的な生産・出荷管理が可能なコンテナ生産技術や新規

格、仕立て方法の検討等の生産支援のほか、イベント等でのPRによる新たな販路開拓等の取組を支援します。

宝塚市のダリアや川西市の切り枝など、特色ある産地の生産、ダリアの切り花出荷等の経営強化、その他新品種導入や販路確保による経営の安定化に向けた取組を支援します。



伊丹に伝わる伝統技術 南京桃



生産量日本一のダリア球根産地の花摘み園

オ 林産物

北摂産原木しいたけの需要拡大や原木の安定供給に向けた取組を支援します。

カ GAP 認証の取得支援

農業者に対し GAP に関する情報提供や啓発指導等を行い、GAP の考えを取り入れた農業経営の実践を推進し、認証取得に向けた取組を支援します。

3 次代を担う経営力の高い担い手の確保・育成

(1) 新規就農者の確保・育成

阪神地域就農支援センターが中心となり、相談・研修・就農・定着の各段階に応じた指導・支援を行います。

近年、新規就農者は非農家出身の割合が多くなっていることから、市町等関係機関と連携して農業インターンシップ制度を活用した農業体験や親方農家等での研修による技術習得、就農や資金の計画作成、農地確保等を支援し、円滑な就農につなげていきます。

就農後は、早期の経営安定に向け、栽培技術の習得や経営確立支援、生産施設導入支援、他の農業者とのネットワークづくり等、習熟度に合わせた継続的な支援を行います。

また、地域農業の新たな担い手として期待される農業参入に意欲的な企業の円滑な地域への参入・定着を支援します。



地元農家へのインターンシップ
(県立有馬高校生)

(2) 認定農業者への誘導と法人化

認定新規就農者等の地域の担い手を認定農業者に誘導します。個々の課題に応じた経営指導や技術改善指導、農地の集積・集約化や施設・機械の導入などにより経営力の強化を支援するとともに、経営管理能力の向上や雇用の確保、経営継承の円滑化など担い手の経営基盤を強化するため法人化を進めます。

(3) 次世代の担い手を確保・育成

農業高校生等を対象に、先進農家を講師とした特別授業や地元農家へのインターンシップを実施します。



有馬高校での特別授業 (三田市)

また、新規就農希望者の研修先となる親方農家の掘り起こし、育成を行うとともに、地域あるいは組織として新たな担い手の受け皿となるよう、就農・定着応援プランの検討、作成を支援します。

(4) 集落営農の組織化

担い手の減少・高齢化が進む中で、地域農業の重要な担い手である集落営農の組織化を推進します。既に組織化している集落では、経営力の強化に向け、複数集落の参加による経営規模の拡大、園芸作物や観光農園などを取り入れた経営の複合化・多角化を進めるとともに、法人化を推進します。

4 持続可能な地域農業の実現に向けた基盤整備の推進

(1) 地域の合意形成促進

地域の実情に応じた農地の大区画化や用排水路のパイプライン化等の基盤整備を推進します。事業への理解や合意に向け、自然圧パイプライン・自動給水栓等の省力化技術や、自動草刈機による畦畔管理の軽労化技術等、先進的な取組事例に触れ、今後の営農に活かすために視察研修等を実施します。



先進地視察(姫路市)

(2) 農業水利施設のライフサイクルコストの縮減と長寿命化

用排水路や井堰等の農業水利施設の多くは、老朽化が著しいために維持管理労力・費用が増大している上に今後生じる更新費用の負担が課題であるため、国の補助事業等を活用して施設の機能保全計画を策定し、対策工事を計画的に進めることで、ライフサイクルコストの縮減と長寿命化を図ります。



改修されたゴム引布製起伏堰
(三田市)

5 農地の確保と効率的な利用の促進

「地域計画」の実現に向け、基盤整備の検討や農地中間管理事業等の活用を促し、担い手への農地の集約化の実効性を高め、効率的な農業経営の取組を支援します。

また、優良農地を維持・確保するため、農業振興地域制度・農地制度の適正な運用により、計画的で秩序ある土地利用を推進します。

さらに、市町や農業委員会、JA や農地中間管理機構(ひょうご農林機構)等と連携し、所有者等の意向を踏まえた利用調整活動を通じて荒廃農地の発生防止・解消に努めます。

6 都市農業の推進

(1) 都市住民と農業者との関係性強化

都市農業が持つ環境保全等の多様な機能について、都市住民の理解を深めるため、都市部における地元農産物の販売体制を支援するとともに、環境に配慮した農業の取組を支援し、都市住民である消費者と都市農地を支えあう関係性を強化します。

(2) 都市農業と阪神産農産物の情報発信

ひょうご都市農業支援センター(伊丹市)を拠点に、阪神農業のPRや「農」や食に関する企画展示等を実施するとともに、ホームページ等を活用した都市農業の情報発信に取り組みます。



「Meet in 阪神」応援店紹介パンフレット

また、阪神産農産物を使用するレストラン等を「メイド in 阪神」応援店として位置づけ、各々の取組を広く PR し、地産地消の拡大を図ります。

(3) 都市農地の保全と活用

税制優遇が継続される「特定生産緑地」への円滑な移行を支援し、都市農地の保全を図るとともに、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の仕組みを広く周知し、農地の貸借を促進します。

また、福祉事業所や民間企業の農業参入や市民農園の開設を支援するなど、多様な主体による都市農地の活用を推進し、都市農業を核とした地域づくりを進めます。

推進項目 2 需要に応える持続可能な畜産業の推進

1 畜産経営の向上

飼養管理作業等の省力化、経営管理の効率化等を目的としたスマート畜産技術の導入を図るとともに、特に近年の夏季高温化に対応するため、暑熱対策技術の積極的な導入による飼養環境改善を支援し、生産性の向上を図ります。

飼料価格高騰への対応として、耕畜連携による稲発酵粗飼料（稲 WCS）の生産・確保を図るなど、生産費の低減を進めます。

特に肉用牛では、但馬牛の優良繁殖雌牛の導入や自家保留、クラスター事業等の活用による牛舎や機械等の整備を支援し、繁殖農家の規模拡大や肥育農家の繁殖部門の導入を進め、肥育素牛の生産拡大を推進します。また、肉質の高品質化を図るため、飼養管理技術の向上を支援します。

酪農では、先進的な管理システムの導入による作業の省力化や良質乳の生産、経営の法人化等を進めることにより、経営の安定化を図ります。また、高能力乳用牛の導入や雌判別精液の利用、さらに高能力牛の受精卵の活用を進めることにより、能力の高い後継牛の確保を図ります。その他、酪農家による乳製品加工など 6 次産業化の取組を支援します。



三田牛共進会（三田市）

2 耕畜連携の推進

家畜ふん尿の適切な処理と良質堆肥生産を推進するとともに、畜産農家と地域内の大規模稲作経営や集落営農組織等と連携する取組を支援し、堆肥の利用拡大と環境改善による経営安定を図ります。



肉牛型稲 WCS 適性試験実証ほ
（三田市）

3 畜産業への新規就農支援

高額な初期投資額、環境問題等により、新規就農が他作目に比べて困難なことから、県、市町、JA 等関係機関が連携し、情報交換等を密にすることによって、事業継承や新規参入にあたっての相談活動、当事者同士のマッチング等を支援します。

推進項目3 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

「ひょうごの木」利用拡大神戸・阪神地域協議会が中心となり、市町等の関係部署に対し木材利用の優良事例等を発信し、森林環境譲与税等を活用した公共施設及び民間非住宅建築物の木造・木質化の取組を推進します。

また、県産木造住宅の設計支援等による県産木材の利用を進めるほか、木製玩具・遊具の導入促進等による「木育」推進等、県民の県産木材利用に対する意識の醸成を図ります。



県産木材を利用した教育施設の
木質化（三田市）

推進項目5 ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

個性・特長ある阪神産農畜林産物のブランド化やブランド力の強化を図るため、栽培暦や生産・出荷規格の統一等による品質の平準化や需要を捉えた生産拡大の取組を支援します。

また、各種イベントや広報媒体等を活用して積極的なPRを行い、ブランド製品の認知度向上に努めるとともに、都市近郊の立地を活かした販路開拓を支援します。

さらに、新たな需要を創出するため、飲食店、菓子店、食品製造業者など実需者への情報発信を強化するとともに、農業者とのマッチングや、障害者福祉事業所など異業種連携による新たな商品開発の取組、農業者や加工グループによる地域の食材を活かした加工品開発や農家レストラン等、6次産業化の取組を支援します。



六甲黒ゆたかのPR（東京都）

推進項目6 食の安全を支える生産体制の確保

農業者の安全で適正な農薬使用を徹底するため、JA等と連携して栽培暦の作成・更新を行い、JA生産部会や農産物直売所等での研修会・講習会で周知するとともに、農業者組織での農薬管理責任者の育成に努めます。

また、重大家畜伝染病の発生に備え、姫路家畜保健衛生所等と連携し、口蹄疫や豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の発生状況を把握し、畜産農家への注意喚起に取り組むとともに、死亡野生イノシシや死亡野鳥が発見された場合に、市町等と連携して迅速に検査機関に持ち込める体制を維持します。

万一発生した場合には、迅速な防疫措置が行えるよう、毎年防疫作業員の動員体制の整備や対応マニュアルの確認、連絡協議会と防疫訓練を実施し、危機管理体制の強化を図るとともに、飼養衛生管理基準に適合した飼養管理の実践を進めます。



豚熱発生に備えた机上防疫訓練

推進項目7 農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

1 地域協働体制を担う多様な人材の確保

(1) 地域の人材

農村地域の過疎化や高齢化の進行により、農地や農業用施設の維持管理が困難となる中、農村の多面的機能を発揮させるため、多面的機能支払交付金を活用し、地域ぐ

るみで取り組む農地・水路等の地域資源の保全や伝統文化の継承、生物多様性の保全等の豊かな農村環境を保全する活動を支援します。また、中山間地域の活性化に向け、中山間地域等直接支払制度等を活用して、農地や水路・農道等の資源や環境を守る取組を支援します。

(2) 外部人材等

地域コミュニティ機能の維持・強化を図るため、地域をコーディネートする人材等の確保・育成等を図るとともに、農村を応援したい農山村ボランティア等の受入れや、森林ボランティア活動、都市部の企業に対し「企業の森づくり」活動場所の斡旋等に支援・協力します。

2 野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくり

(1) 野生動物の個体数管理・被害管理

シカやイノシシ等による農業被害の軽減を図るため、管理計画に基づき、被害発生地域での捕獲わなの設置等による有害捕獲や狩猟期の捕獲報償金制度等を活用した捕獲を進め、適正な個体数管理を推進します。

また、防護柵や電気柵の設置、野生動物と人のすみ分けを図るための緩衝地帯(バッファゾーン)の整備を推進します。



獣害対策チームによる
集落指導（宝塚市）

(2) 集落ぐるみでの被害対策

「獣害対策チーム」が被害発生が多い集落を対象に、地域の現状に応じた集落ぐるみの被害対策を提案するほか、現地アドバイザーによる ICT 技術等を組み合わせたスマート獣害対策への取組を通じて、集落等リーダーを中心としたモデル育成を図ります。

(3) 特定外来生物への対応

アライグマやヌートリア等の生息域拡大の防止と農業・生活被害防止のため、市町による計画的な防除活動を市町振興支援交付金等を活用し支援します。

クビアカツヤカミキリやナガエツルノゲイトウについては、早期発見と侵入地域での繁殖拡大防止のため、市町・JA や専門家と連携し、農業者へのチラシ配布や研修会等による周知を図るとともに、農業者による防除対策を支援します。

3 都市と農林水産業・農山漁村の交流による地域活性化

ホームページや SNS 等の各種広報媒体を活用し、阪神地域の「農」と食に関する情報を広く発信し、県民の楽農生活実践への取組を支援します。

また、楽農生活の実践と農村地域の活性化につながるよう、市町、JA、集落営農組織、NPO 法人、民間企業等、多様な主体による市民農園・体験農園の開設や施設のレベルアップ、さらには空き家等を活用した田舎暮らしや二地域居住の取組を支援します。

推進項目 8 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

阪神産農畜林産物の新たな需要を創出するため、飲食店、菓子店、食品製造業者など実需者や観光事業者への情報発信を強化し、農業者との連携による新たな商品開発や、ふるさと納税返礼品等の活用等による認知度向上・販路拡大を支援します。



未利用豆を利用した料理開発

推進項目 9 農山漁村の防災・減災対策の推進

1 ため池災害等の未然防止

ため池管理者を対象とした研修会の開催や専門技術者による定期点検、ため池サポートセンターによる技術指導等を通じて、管理者による適正管理の取組を支援します。

また、定期点検等により決壊等の危険度が高いと判断されたため池については、市町ごとに定める「ため池保全推進計画」に基づき、計画的な改修整備を進めるとともに、利用実態のないため池については廃止を管理者に促します。

さらに、万一のため池決壊に備えてハザードマップの作成を支援するほか、流域治水対策として、ため池の事前放流(期間低水位管理)を推進します。



ため池クリーンキャンペーン
(三田市)

2 山地防災・土砂災害対策の推進

近年、集中豪雨等が頻発していることから、山地災害危険地区において、人家等の保全や流木・土砂流出防止対策として治山ダム等の整備、山腹崩壊地の復旧や落石対策等として山腹工の整備を計画的に進めます。



くらしを守る治山ダム
(土砂流出防止対策)

3 減災対策

県ホームページにおけるハザードマップの公開や「豊かなむらを災害から守る月間」での市町等との合同によるため池や山地災害危険地区の防災パトロールを実施します。



合同防災パトロール (三田市)

推進項目 10 豊かな森づくりの推進

1 県民総参加の森づくりの推進

市民自らが取り組む緑化や森林整備活動を広く県民に紹介するとともに、北摂地域をはじめ里山林整備に重要な役割を担う森林組合、森林ボランティア、NPO 法人、緑の少年団や企業等の多様な主体による森づくり活動を支援し、放置された里山林の再生を図ります。

また、森林の公益的機能の重要性と維持・向上に対する県民理解の一層の醸成を図ります。



「ひょうご里山フェスタ 2024」
(R6.11.3 宝塚市立西谷小学校)

さらに、森林環境譲与税を活用した、里山林の整備や人工林の間伐、作業道の設置・管理等の条件整備を進めます。

2 森林の防災機能の強化

土石流や流木の危険性の高い人工林において、伐採木を利用した土留工の設置や災害緩衝林整備、簡易流木止め施設の整備により防災機能の強化を図ります。

また、集落に隣接する里山林や災害が発生しやすい急斜面の裏山において、大径木の伐採や簡易防災施設の設置を行い、防災機能の向上を図ります。



緑の少年団による森林整備

3 森林病虫害対策の推進と保安林制度等の適正運用

ナラ枯れについては、防除・駆除対策の実施等により沈静化の傾向にありますが、被害を受けやすい大径木が林内に残存していることから、市町が森林環境譲与税を活用して実施する被害対策等を促し、再拡大の防止を図ります。

また、保安林制度や林地開発許可制度の適正な運用により、森林の保全を図ります。

推進項目 11 「農」と多様な分野との連携強化

1 福祉・観光分野等との連携の取組拡大

農福連携を推進するため、市町や JA 等関係機関と連携して農業者や福祉関係者等のニーズ把握に努め、マッチングや農地確保、栽培技術の習得等、連携推進に向けた取組を支援するとともに、取組事例を収集し、関係者への情報発信、情報交換の推進を図ります。

また、阪神地域で飲食店と農家がタッグを組むことで、地元食材「メイド in 阪神」の魅力発信や新たな加工品開発による消費者層の拡大など可能性を一層引き出し、「阪神地域で採れた新鮮で美味しい農畜林産物」を消費者に味わってもらえる取組を強化します。

さらに、観光分野との連携を強化し、観光情報とあわせて、日本農業遺産に認定された「山田錦」の産地や酒蔵のほか、阪神地域の様々な体験農園や観光農園、阪神産食材が味わえる飲食店など、「農」と食の魅力を発信し、交流人口の拡大を目指します。



就業支援施設によるマルシェ
(都市農業支援センター)

2 学校給食等を通じた食農教育の推進

幼少期から地域の農畜林業や食文化への興味・理解を醸成するため、農業者、市町教育委員会をはじめとする給食関係者と連携の下、学校給食等での地域産農畜林産物の利活用を促進するほか、園児とその保護者を対象とした黒大豆枝豆等の収穫作業体験等のコト体験を通じて、地元産品と触れ合う体験機会を充実します。



幼稚園でのさやもぎ体験
(三田市)

推進項目 12 県民とのつながりで育む食と「農」

多彩な地場産品の供給力を強化するため、直売所への出荷を増やそうとする農業者に対し施設・機械導入を支援します。

また、魅力ある直売所の運営を目指し、直売所やインショップの整備や農産品の PR イベント開催等を支援します。

さらに、楽農生活を実践する場の充実を図るため、市民農園・体験農園の開設や施設のレベルアップを支援します。

推進項目 13 県民への安定的な食料供給

1 生産から消費を結ぶ仕組みづくり

阪神産黒大豆枝豆は、三田市や猪名川町、宝塚市北部地域を中心に各市町、JA と連携しながら生産振興に取り組んでおり、省力化のための機械化に合わせた栽培体系の確立、夏季の高温対策、適期灌水及び病害虫防除の徹底等の栽培技術の確立を進めています。

また、阪神産黒大豆枝豆が地域に愛されるソウルフードとしてブランド化される仕組みづくりを目指して、収穫調製施設から排出される未利用豆の異業種との連携による商品開発等の活用を支援します。



スマート機器を活用した
適期灌水の推進

2 消費者の信頼の確保

食品に対する消費者の信頼を確保するため、食品表示法などに基づく適正な食品表示を進める目的で講習会を開催するなど、制度の周知を図るとともに、食品を販売する店舗への巡回調査や立入調査を通じて適正な食品表示を指導します。

また、安全・安心な食品を製造するため、農畜林産物の加工を行う団体等に対し、適切な衛生・品質管理手法を指導するとともに、安全・安心の基本事項を定めたマニュアル策定を支援します。

Ⅲ 成果指標

指標名	R6 年度 (現状)	R12 年度 (中間目標)	R17 年度 (目標)
農業総産出額 (億円)	87※	89	91
生産緑地面積 (ha)	353	334	320
水稻 (良食味) 高温耐性品種の導入割合 (%)	0	28	33
黒大豆枝豆販売額 (百万円)	108	300	350
三田ピーマン栽培面積 (ha)	2.0	2.3	2.5
肉牛型 WCS 用稲作付面積 (ha)	1.0	5.0	10.0
施設いちご栽培面積 (ha)	3.6	4.0	4.5
ぶどう栽培面積 (ha)	2.5	3.0	3.5
ダリア (切り花用) 作付面積 (ha)	0.5	0.6	0.7

※ R5 数値